

アミーゴ会だより

2012年 10月
(メルマガを改題)
No. 12: 2012-IV



発行人：上原尚剛
編集人：河嶋正之
 鴻巣勝明
事務局：笠井道彦

メキシコビジネス事始め

パシオンを熱くする冷熱技術 ～マエカワ・デ・メヒコ S.A. de C.V.～

株式会社 前川製作所
代表取締役社長 田中嘉郎

Mayekawa De Mexico 社は、前川製作所の海外法人第 1 号として 1964 年にメキシコ市に設立されました。今年で 48 年を迎えメキシコに進出している日系企業の中でもかなり歴史のある会社です。



クエルナバカ工場正門

当時、冷凍業界において海外進出を計画する時、まず考えるのは本場のアメリカ、ヨーロッパですが、当社の場合メキシコを選択しました。後から聞いた話ですが、このメキシコを選んだ理由というのが、二代目オーナー(現顧問)がアメリカ留学中に度々休暇でメキシコを訪問し、ここの風土、人情味のあるおらかな気質が大変気に入って、ここに是非海外拠点第一号を作ろうと決心したからだそうです。とは言うものの、本音は、アメリカ上陸の前にまずはメキシコでの小手調べだったのでしょ。

輸入禁止

当時のメキシコには、欧米系のメーカー 2 社が既に進出し、市場を二分していました。両社とも国産化率は高く、冷凍機(圧縮機)の輸入は禁じられていました。この為、後発の当社も現地生産が義務付けられ、第一ステップとして当時の商工省(SIC)から特別に許可を貰い、メインパーツを日本から輸入し、組み立て(KD)からスタートすることになりました。こうして、Av. Henry Ford, Colonia Bondojito に借りた小さな Taller でメキシコでの生産が始まりました。この最初の工場では、数台の工作機械と数十名の現地従業員及び本社工場からの数名の駐在員でスタートしましたが、駐在員は誰もスペイン語が分からず四苦八苦したようです。

その後年々国産化率のアップが義務化され、筆者が赴任した 1969 年には 70%まで達成するよう SIC より通達がありました。最初の 2 年間くらいは担当の営業をやる傍ら国産化率アップの為、国内の納入業者の間を走り回っていたと記憶しています。

“共創”

小さな所帯でスタートしたことで、社内ではメキシコ人と駐在員とのチームワークはぴったり息が合い、正に当社の経営理念である“共同体”、“共創”の原点がここにあったように思います。お互いに人間尊重、平等、チームワークの精神をベースに仕事をする事で初期の力が発揮されたように記憶しています。この点で欧米系のメーカーの経営理念は全く違っていたようで、つまり完璧なトップダウンだったように思います。これが後に大きな障害となって行き詰まったように思います。

＝ 目 次 ＝

1. メキシコビジネス事始め：「パシオンを熱くする冷熱技術～マエカワ・デ・メヒコ」 前川製作所 田中嘉郎 ... p1
2. メキシコへの誘い：「都市の記憶、変遷するレフォルマ通り」 みかどトラベル 安達裕樹 ... p4
3. 活動報告：「西日本地区アミーゴ会親睦会」 西日本地区アミーゴ会 幹事 小茂田一希 ... p5
4. 活動報告：「第 3 回アレグリア・デ・メヒコは晴れました！」 会員・(有)エバーラースティング 藏野佳好子 ... p6
5. メキシコだより：「アミーゴの国で LICEO(日本メキシコ学院)35 歳」 会員・メキシコ代表 遠藤滋哉 ... p7
6. トピックス：「今後 10 年でメキシコはブラジルを追い越すか」... p3 / お知らせ：「11 月 6 日総会懇親会」 ... p9

冷凍機産業でもっとも重要なポイントはアフターサービスの質とスピードです。この点においても当社の方針は他メーカーと比べ大きく異なっていました。前述の経営理念がベースで、顧客の満足度を如何にして最高のものとするかを常に考え、全社員が共同体で顧客にサービスを提供していました。機械が壊れたときは、土日を厭わず可能な社員が率先してサービスに当りました。

当時のメキシコでは、金曜日に修理の依頼が入るとアテンドは早くても翌週の月曜日でしたが、当社は土曜日でも日曜日でも空いている者が飛んで行く体制でした。筆者もこのような経験を何度もしたことがあります。

ある金曜日の午後4時頃、冷凍機の異常運転の一報が入りました。確か、ベラクルス地方にあった乳業の会社だったと思います。この時は全てのサービス員が出払っており、誰もいませんでした。上司の指示で早速必要パーツを揃え、夜8時の飛行機に飛び乗りました。現場到着後早速冷凍機のオーバーホールを開始し、完了したのは朝方5時頃でした。機械の修理後再起動をし、朝もやの中でふと気がつくと、周りにオーナーを始めメンテ担当者が輪を描いて並び一斉に拍手をしてくれました。そして、テキーラとタコスを持って来てくれた時、後方で誰かが「Viva Salvador!」と叫びました。この時のみんなの笑顔とテキーラとタコスの味は今でも鮮明に覚えています。

モノボリー

このようなサービス対応で徐々に顧客の信頼を得て冷凍機の受注も急増し、1970年代始めには最初の Taller が手狭になり、近所の広い工場に移転しました。Av. Inguaran con Henry Ford, Col. Bondojito が所在地で、ここでは更に工作機械を導入し、従業員も増え国産化率も80%以上に達していたと思います。

その後、前述のサービス活動をベースにして冷凍機の拡販が年々進み、また冷却プラントの受注も増え、常にフル生産の状況が続きました。この頃、他の欧米系メーカーは市場のシェアを失いやがて撤退していく事になり、当社のみが国産メーカーとして残りました。この状況が1980年代半ばまで続きましたが、やがてメキシコ政府は方針を変更し、冷凍機器の輸入を解禁しました。

冷凍市場戦国時代

長い間無競争の時代が続きましたが、輸入解禁になると欧米製の輸入品が入るようになり、当社も品質の改善が大きな課題になりました。当時の国産の素材には品質のばらつきがあり、不良率も高く、かなりコスト高となっていました。圧縮機の50%の素材は鋳物ですが、良質な鋳物素材と安定供給を確保するのに大変苦勞しました。当時、メキシコで一番の品質を誇っていた鋳物メーカーがモンテレイ市にありましたが、このメーカーで

すら不良率は高く納期も安定していなかったと思います。筆者も、当時モンテレイ出張が多かったように記憶しています。モンテレイ出張では、カブリータのタコスを食べ、デザートに土地のドゥルセを食べることがとても楽しみでした。

良質の鋳造品の入手に苦勞をした結果、1985年にはクエルナバカ市にあった鋳物工場を買い取り、品質を上げる為に日本から専門家を常駐させ、徹底して高品質の鋳物製造に力を入れました。当時は本社工場でも鋳物部門は所有しておらず、初めてメキシコで鋳物工場運営に取り組んだものです。

この買収した鋳物工場は合計2ヘクタールの土地を有しており、1990年にはメキシコシティにあった機械加工、組立工場もこの地に移設し、鋳造から加工、組み立て、完成品まで製造できる一貫工場になりました。



メキシコから世界の市場へ

鋳物から完成品までの製造一貫工場となり生産能力も拡大し、メキシコ国内市場だけではなく北米及び中南米諸国への輸出も開始しました。当時、北米ではメキシコ製品に対する信頼度が低く、初めはなかなか市場で受け入れてもらえませんでした。当社の北米店からは製品に HECO EN MEXICO の名盤を付けないで欲しいとの依頼を受けたこともありましたが、しかし、北米市場でのメキシコ製圧縮機の販売も順調に伸び、やがて抵抗感なく市場で受け入れられるようになりました。そして、徐々に日本、欧州、アジアにも輸出できるようになりました。メキシコ市場での小手調べから実に30年を経て、ようやくメキシコ製冷凍機が国際市場で認知されたのでした。

メキシコ製の販売がグローバルになった1990年代の後半には、ピストン式圧縮機の日本での生産を止めメキシコ工場に全面移管する事になり、このタイプの圧縮機の生産はメキシコのみで行われるようになりました。国産化率も大幅にアップし、コストダウンも達成出来、いまや当社にとって重要な生産工場のひとつになりました。

近年の円高の環境下では、日本の製品は著しく国際競争力を落とし、多くのメーカーが苦戦しているようです。生産の海外移転は、中国を筆頭に

アセアン諸国が多いのですが、当社はメキシコに惚れ込み、この国に更に投資を続ける考えです。



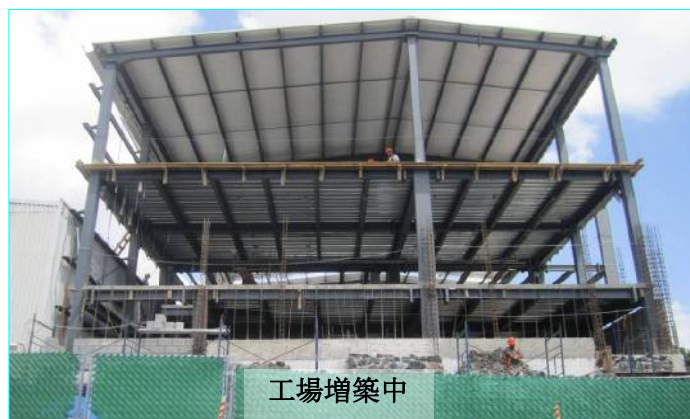
スクリー型圧縮機 試運転装置

一昨年は、もうひとつの主力商品であるスクリー式圧縮機もメキシコ工場に移転することを決定し、一期工事は完了し現在2期めの工場増築中です。一部機種から製造を始め、最終的には全種類の現地生産に切り替えて行く計画です。

現在メキシコ工場は工場従業員 280 名、販売7拠点で 100 名と従業員 380 名で活動しています。

地球温暖化防止に貢献

メキシコの冷凍市場では、飲料、乳業、食品凍結、冷蔵倉庫、製氷工場、石油分野、化学薬品分野と様々な分野で当社の冷凍機が使用されており、中でも一人当たりの消費量世界一のコココーラでは、ほぼ全ての工場の生産に当社の冷凍機が使われています。



工場増築中

また、近年、メキシコ政府の方針として省エネ、環境保全の取り組みが急速に推進され、一昨年には政府間の省エネミッションに当社も参加し、高効率省エネ機器の紹介をしました。商談会では、廃熱利用の吸着式冷凍機海外第一号機をメキシコに導入することが出来、今後はこの分野での新しい省エネ技術や商品の導入にも力を入れて行く考えです。そして、これからも益々メキシコの冷凍産業発展に寄与して行きたいと願っております。

(了)

【編集部注：掲載写真は全て前川製作所様より提供いただきました。前川製作所 HP：<http://www.mayekawa.co.jp/ja/>】

トピックス

今後10年でメキシコはブラジルを追い越すか

編集部 河嶋正之

「メキシコが早ければ 2022 年にも、人的資本と全要素生産性(TFP)の大幅な伸びを背景に、ブラジルを抜いてラテンアメリカ最大の経済大国に躍り出る可能性がある」との予測レポートを 8 月 8 日、米国野村(NSI)が明らかにしました。同レポートはメキシコ経済とブラジル経済との綿密な比較考量を行っていますが、本稿では結論的文言を恣意的に要約引用します。

「メキシコ新政権が野心的な経済改革で経済成長に再び弾みをつけられれば、メキシコ経済は中南米の“ジャガー”に発展する可能性がある。」

国際通貨基金(IMF)はブラジルの経済規模をメキシコの約 2 倍の 2 兆 4,000 億ドル程度と推定しているが、同レポートは、「メキシコ経済が予想レンジの上限水準で成長し、かつブラジルの成長率が下限水準で推移すれば、両国の差は 2022 年までに消滅し、28~29 年にはメキシコがブラジルを追い越すだろう」とし、12~22 年の平均経済成長率をブラジルは 2.75~3.25%、メキシコは 4.25~4.75%と予想して、「ブラジルで構造改革法案が可決されず、一方メキシコで可決されれば、『メキシコが高成長、ブラジルが低成長』というシナリオが現実のものとなる可能性が最も高くなる」と述べる。

2010 年代、メキシコ経済は自由開放政策と製造業の生産性改善に立脚し、他方でブラジル経済は商品輸出に依存し国産保護的傾向を強めている。かくして「メキシコの高い経済成長率は長期間持続する可能性があり、メキシコの経済規模がブラジルを上回る可能性がある」と NSI は展望する。

《何事につけ「予測はタラレバの世界」ではありません。しかし、メキシコ経済が中南米の頂点に再び君臨する可能性(挑戦課題：努力目標)を整理した点に、勝手引用の羅列で理解しがたいとは存じますが、本レポートの貢献があると筆者は考えます。》

他方、英フィナンシャルタイムズ 9 月 7 日付電子版は、「メキシコ輸出製造業は 2008~09 年に中国を抜いた。これは構造的変化で今後も続く」とのバークレイズ銀行の興味深いレポートを伝えました。

すなわち、1997~2011 年のメキシコ輸出製造業の年平均成長率は 4.5%、中国は 18%だったが、現在では 9.5%と並んだ。構造変化の第一は人件費で、2003~11 年に中国の人件費は毎年約 20%増加したがメキシコは変化がなく、03 年に中国の 6 倍あったメキシコの人件費は 11 年には中国より 40%高いだけとなった。メキシコは若年人口が増加傾向にあり、中国は高齢化に向かっているため、人件費の差は今後数年でなくなる。構造変化の第二は輸送コストで、エネルギー価格が高値に留まるなか、特に自動車産業の製造過程が変化して近距離サプライヤーの重要性が増えている。

《後者は輸出製造業の構造変化が今後ともメキシコに有利に働くと、実証的に分析しています。メキシコ経済の再度の躍進が期待できそうですね。》 (了)

都市の記憶、変遷するレフォルマ通り

みかどトラベル 安達 裕樹

いまだ記憶に新しい 2012 年のロンドンオリンピックですが、私にとって最も印象的だったのは、男子サッカーが優勝した時の歓喜の渦と沸いた群衆の姿でした。下の写真はその時のものです。



レフォルマ通りを舞台として、デモ行進やマラソン大会、メキシコ独立記念日には軍事パレードなど、様々なイベントが催されています。

19世紀にマクシミリアーノ1世がパリのシャンゼリゼ通りに倣い『皇后の通り』の名で建設して以来、メキシコの歴史と常に歩みを合わせるように、レフォルマ通りはその姿を変えつつあります。

林立する超高層ビル

1960-80年代になると、スペイン植民地時代の古い建造物が取り壊され、現代的な超高層ビルが代わって林立するようになりました。



最近では、2003年に完成したトーレ・マジョールは、当時ではラテンアメリカで最も高いビル(225.4m)でした。理論的にはマグニチュード9.0の地震にも耐えうる最新の免震構造で設計されています。こういった摩天楼は新しいレフォルマの象徴になりつつあります。

将来的にはトーレ・マジョールをしのぐ高さ(244m)でメキシコで一番高い建物となるトーレ・レフォルマも、2014年の完成を待ちわびているところでもあります。

2009年の秋にはディアナ噴水のロータリーの一角に、ホテル・セント・レジス・メキシコシティがオープンしました。このビルは設計をアルゼンチン出身の著名な建築家シーザー・ペリが手掛けたことでもその名を知られております。



スペインからの独立200周年を記念し、2010年の9月15日に完成を予定しておりました。しかし、15ヶ月にもおよぶ計画の遅れにより2012年1月7日に除幕式を迎えたことも、様々な物議を醸した出来事でした。

レフォルマの新しい顔が毎夜、街道をイルミネーションで華やかに彩ります。

エコ・ビシ

このようなモニュメントやビル群をゆっくり眺めるのに最適なのが日曜日のサイクリング天国ではないでしょうか。

2010年に始まったエコ・ビシという契約自転車のサービスも、最近では日常的な風景となりました。駐輪場は300mの間隔で整備され、地域も年々拡大しつつあります。利用には年間契約が必要となりますが、欧州でも同様に利用されているRFIDという最新の自動位置探知システムを備えています。メキシコシティの大気汚染の軽減はもとより、日頃の運動不足の解消にもなります。

メキシコシティの目抜き通りレフォルマ。道行く人の数だけ様々な姿を見せる魅力的な場所でありま



す。ぜひご家族やご友人を連れて散策に出かけてみてはいかがでしょうか？(了)

西日本地区アミーゴ会親睦会の報告

西日本地区幹事 小茂田一希

今年も9月15日から17日まで、Fiesta Mexicana Osakaが大阪梅田のスカイビル広場をメインに開催されました。メイン会場では、メキシコ祭り一色で、メキシコからはDFのガルバルディ広場で演奏しているMariachi “Los Reyes” y “Bibiana”、クエルナバカからのMarimba Internacional “La Bamba”を始め、踊り・ギター演奏他関西地区を中心に活躍される有志も参加し、明るく、楽しく、時にはボラッチョになっている参加者をみながら、楽しいひと時をすごしました。

我等、西日本地区アミーゴ会は、今年も16日(日)に有志22名が集まり、Fiesta Mexicana Osakaの会場の地階のレストランで開催された、年に1度のビッグイベントを堪能しました。

好きになっておられ、正直生活環境は楽ではないとお聞きしていますが、参加者と楽しいひと時を過ごしておられる様子を見ると、来年またお会いできればと思っています。

次は、エミリオ・モラレスご夫妻、ご主人がメキシコ人、奥様が日本人。ご主人はたぶん70歳を越えられ、職業はミュージシャン。昨年の会には、ご縁がなく来られませんでした。今年は参加いただきギターまたはアルパを奏でながら、メキシコの歌、中南米の歌を参加者と一緒に歌いました。年齢的には、声が出にくくなっておられ、会の参加者の中にはエミリオよりも上手に歌えるとマイクをしばし独占された方もいらっしゃいましたが、エミリオさんを支えるマネージャー

2012年9月16日 日本・メキシコアミーゴ会西日本親睦会



事務局の伊藤さんの開会宣言、関西代表の鹿内さんのご挨拶、そして本部事務局から事務局長の笠井さんご夫妻にご来阪いただき、最近のアミーゴ会のトピックス他をお話いただき、乾杯のご発声もお願いし、食事会がはじまりました。

西日本地区のアミーゴ会参加者は、すべてがメキシコでの勤務経験、留学経験がある人だけではなく、メキシコに関心のある人、ラテンアメリカ文化に関心のある人、何らかの形でメキシコに関心のある人等さまざまな分野で活動されている人が集まります。

私が、今年のアミーゴ会を振り返り特筆すべきは2点あります。最初は、山本夫妻とのお子様の参加です。奥様がメキシコ人でご主人がみるからに優しい日本人、その子供は日本で生まれ、育っている2歳ぐらいの愛くるしい眼をした男の子。奥様が、なれない日本文化によりやく慣れてこれ、以前に比べ日本

である奥様の優しく演奏を見守られている姿に私は感動しました。

異文化を乗り越えて活躍されている山本ご夫妻、エミリオモラレスご夫妻の姿をみながら、来年も是非皆で楽しいひと時を過ごせたらと思います。

アミーゴ会の西日本地区の皆様、東日本地区で関西に関心のある皆様、まだ一度も関西にこられた経験のない皆様、来年は是非西日本地区アミーゴ会に参加していただき、Fiesta Mexicana Osakaを中心に、関西を楽しんでいただければと思います。(了)

【筆者注：西日本地区親会の写真集をご覧ください：

https://picasaweb.google.com/111246551696122201760/201209?authuser=0&authkey=Gv1sRgCMzJ_KW-r9TIYA&feat=directlink】

【編集部注：Fiesta Mexicana Osakaの案内はこちら：

<http://www.skybldg.co.jp/event/mex/2012/index.html>】

雨が心配されましたが、第3回アレグリア・デ・メヒコは晴れました！

会員・(有)エバーラスティング 蔵野佳好子

マヤ暦：新しい周期が始まる！

今年のアレグリア・デ・メヒコの“プロジェクト マッピング”をみなさんご覧になりましたか？

「2012年マヤ・カレンダーが終わる」ということで、テーマはマヤ・カレンダーとしました。このカレンダーについては諸説あるようですが、ここでは一つの周期が終わり、そして新たな周期が始まるという説を採用しました。

これをテーマに選んだメキシコ人スタッフたちは本当に素直に先人たちのすごさを認め、尊敬の念を抱きつつ、どうすればそれらを表現できるかを10名が4ヵ月間試行錯誤し、この作品は完成しました。

何千年も前の人類が、恐らくテレビも、コンピューターもスペースシャトルも無かったであろうその環境で、ただただ目視のみで天体の動きを観察し、数千年後の星の並びを予測し、そしてカレンダーを創ったという人間の叡智に本当に感動を覚えます。

マッピングの内容はマヤ文明からのメッセージ、マヤの儀式、チャックモール、ボールゲーム、そしてカレンダーの動きをモチーフとした壮大なもので、ただただ圧倒されました。観客からも驚きの歓声があがり、私の近くで見ていた南米の方は涙を流して「感動した！蔵野さん、本当にこのイベントはいいよ！これ、価値あるよ！」とのお言葉を頂きました。かの大陸出身の方にこのように誉めて頂くと本当に嬉しいです。

東京駅でも先日、プロジェクト マッピングを使った映像パフォーマンスが行われました。あの



ような派手なエンターテインメントも素晴らしいですが、私は、規模は小さいですが、このメキシコで創られたアレグリアのプロジェクト マッピングはテーマと強いメッセージを持っているところが本当に価値があると思っています。You tube でもご覧頂けますので見逃した方はぜひ見てみて下さい！

テキーラカクテル：試飲15杯！

また、アミーゴ会にもご協力頂いたテキーラカクテル・コンペティションですが、昨年好評だったので今年はコンペ終了後、選手の方たちに実際に出品したテキーラカクテルを販売して頂きました。かなりの人数のお客様が殺到し、テキーラのカクテルがこんなに美味しいのかと驚きの声があがっていました。



審査員をして頂いた市井さん、今年は15名と出場人数が増えたので15杯のテキーラカクテルを飲まなければいけませんでしたが、大丈夫でしたでしょうか(笑)。そこはさすがメキシコ仕込み！全く大丈夫だった市井さんでした。本当に有難うございました。



これからのアレグリア

他にもメキシコのスパークリングワインやタヒン、メキシカンポークなどの新たなアイテムもアレグリアに参加して下さり、徐々に彩りを増やしています。来場者数も7万人に達し少しずつではありますが、このイベントは育ってきています。

主催側としては3回目という年は出店数も増えたり、出演者も増えたり、足らない所、予算の都合と、色々なバランスがうまくとれない局面も多々ありました。しかし、これも更に大きく成長するための痛みと思い、楽しみながら次に生かしていきたいと思えます。皆さまも新しい情報や面白い情報があればぜひお寄せ下さい！

アレグリア・デ・メヒコは「メキシコの楽しい

こと、嬉しいことがいっぱい詰まった夏の日をつくる」ということが名前に込められた思いです。そんな楽しい作業に多くの方々が参加して頂けるようなインフラを強化していこうと思っていますので、これからもよろしくお願い致します！ (了)

【編集部注：第3回アレグリア・デ・メヒコは8月11～12日に横浜赤レンガ倉庫前広場で開催されました。詳細は公式サイトでご確認ください：<http://www.alegriademexico.com/>】



アミーゴの国でLICEO(日本メキシコ学院)35歳

アミーゴ会メキシコ代表 遠藤滋哉

リセオ誕生秘話: 両国首脳が生みの親

「オイ、通訳！いま大統領閣下は何と言った！！??」

1974年9月、まだ夏の日差しの陽光が葉陰をくぐって漏れてくる会談室に田中角榮総理(当時)のしゃがれた、しかしよく通る声が響いた。ここ、Los Pinos(チャプルテペック公園の一角にある大統領官邸)の執務室に続く会議室で、明日発表の墨・日共同声明を詰める首脳会談の席である。



毎年9月13日には、1849年米墨戦争で米軍に包囲されながら最後までチャプルテペックの城を守って自決した6人の少年英雄兵(日本を知る人々はメヒコの“白虎隊”とも形容)の顕彰記念式典が催される。その年の優秀士官候補生に荣誉短剣を授けて、日焼けを額に残したエチェヴェリア大統領(当時)は眼鏡の奥に鋭く光る精悍な眼差しを角榮総理に向け、ゆっくりとこれもまた良く通る声で切り出した。「御国日本と友好の礎となっている“交換留学生”が両国にとって大変良好な経過を顕している事を承知している。そこで今の50名を倍の100名に増やしたいと考えているが、総理閣下に於かれては如何か…?」

制度的(立憲)革命党(PRI)のエリート、グスタヴォ・ディアス・オルダス政権の後を受け、圧倒的な支持を得て内務大臣から第50代大統領に就任して政権4年目、先の9月1日の教書も自信に満ちた3時間を越える長広舌を揮い、万雷の拍手を受けて演壇を後にして来た気迫漲る話しぶりに、さすがの角さんも一瞬秘書官を見やった。

外務省からの随行事務官が角さんの袖を引かんばかりに小声で、「総理、総理！、突然の申し出であり、こちらの受け入れ体制が整いません。ここは即答はちょっと控え…」。角さん：「ウン、ああそうかア、ア〜ア…大統領閣下のお言葉ではあるが、担当している現場サイドの準備もあることなので…、一旦実務レベルで協議すると云うことで…」。

メヒコ側の通訳官の翻訳を耳にしてエチェヴェリア大統領：「それはお互い事情は同じである。貴方は日本国を代表して、私はメキシコの国を代表してここに話をしている。要はお互いのやる気があるか、無いか

の問題ではないか…!?!。御国の留学生を私が5人、ここに居る外務大臣が5人、大蔵大臣が5人、教育大臣が5人、商工大臣以下3人づつ引き受ければ50人になる。将来の日本とメキシコの友好の絆を強める好機は今この時、この場、田中総理大臣閣下と私の話だ!」。 「エッ!?!」と云う顔をした随行事務官を尻目に、角榮総理：「…! (そこまで言われては…面目なし!“ヨッシャ!”と言ったか…どうか?) ワカッタ! やりましょう!!」。

再び大統領：「私は当国メヒコに住まわれる御国の友人をたくさん持っています。折に触れて彼等から日本の文化を伝える学校、それには日本の国の言葉(日本語)と共に勉強できる学校を作らなければならない、両国をお互いが理解できる子供達を育てる学校を作りたいと云う篤い要望を聞いています。先の5月にブラヴォ・アウハ教育相が御国のOKUNO 文部大臣(奥野誠亮)との話し合いでも取り上げた、メキシコに日本の総合学園建設を推進する事も大きな私達の役目だと思っているが如何だろうか…!?!」。

角榮総理：「全くもって賛成である、ご承知のとおり、私は小学校“高等科”卒である。人の心を養うのは正に教育に他なりません。今回御国メキシコとの友好親善商工推進のため300万ドルの用意がある。これを役立ててもらえれば貴国をお訪ねした甲斐があらうというものでもあります…!。オイ、通訳しっかり頼むぞ!」。かくして、「ありがとう!」、「ム〜チャスグラシヤス!」。握手!、握手!、握手!。

この後、田中角榮総理に随行してきた事務官の二人は、翌日発表する共同コミュニケの手直しに急遽トラテロルコのメキシコ外務本省に終日缶詰になり、メキシコ・日本共同1974年宣言の作り直しに尽力されたのです。

晴れて、9月15日の憲法広場(ZOCALO)ではリス・エチェヴェリア・アルヴァレス大統領4度目の“GRITO”。パラシオ・ナショナルのバルコニーに招待を受けた田中角榮総理大臣は晴れ晴れとした笑顔で、祝福の握手を大統領と交わしました。

花火が上がり、「VIVA! MEXICO!!!」「VIVA! JAPON!!!」



このような経緯で、われらの「日本メキシコ学院＝リセオ＝LICEO」は誕生する事になったのです。この後のことは『新国際人の出現(海外子女教育シンポジウム詳報)』、『日本メキシコ学院十年の歩み』(共に毎日新聞社編)及び『日墨交流史』(日墨協会／日墨交流史編集委員会編・PMC出版)に詳しいのでそちらをご参照下さい。

リセオ LICEO<LYKEION

LICEO の誕生日は 1977 年 9 月 23 日吉日。今年は LICEO 誕生から 35 歳です。ここメヒコでは“LICEO (リセオ)”と言うと「日本メキシコ学院」の代名詞となっています。

“LICEO”は何処から来た呼び名でしょうか？二年前に講演してくださった神田外語大学教授の柳沼孝一郎先生が教えてくれました。ギリシャの高名な哲学者・博物学者アリストテレス(384-322B.C.)は、プラトン(427-347B.C.)の弟子で彼が主宰する“アカデメイア(＝アカデミーの語源)”で 17 歳の時から学んで、後にアテネの郊外に高等学園「Lykeion＝リュケイオン」を創設、ここから「LICEO＝学園＝学院」の呼称が生まれました。ちなみにフランス語で“Lycee＝リセ”は高等学校を意味します。

このように歴史的にも由緒ある名前を「日本メキシコ学院」に名付けて下さった、創立の時に尽力された方々の先賢に敬意を表すると共に御礼を申し上げます。



リセオ第35回開院記念式典

今年の LICEO のお誕生日は 9 月 21 日(金)にリセオ講堂で祝われました。初めに故人となられた貢献者、芝山エンリケ(精二)・元理事長、櫻田武・元理事長、川辺繁紀・元理事、加藤隆平・前事務総長の方々に黙祷を捧げ、両国国旗に対し敬礼し両国国歌を斉唱しました。続いて河上エクトル学院長、加藤直之理事長の挨拶があり、在メキシコ日本国大使館からは山内弘志臨時代理大使(公使)に祝辞をいただきました。

学院創設に尽力された山崎ベニト(紀夫)理事が今年の春、日本政府から叙勲・旭日小綬章が贈られた記念に、リセオより記念クリスタル・プレートを贈呈し、山崎理事よりご挨拶がありました。また、2012 年度リセオ教育賞の発表と表彰があり、永年勤続教員・職員(10/15/20/25 年)の表彰が行われました。

日本とメキシコ両コースの 6 年生による合唱では、



メヒコで古くから愛されているお誕生日の歌「ラス・マニャニータス(Las Mañanitas)」がリセオ・オリジナル・ヴァージョンの日本語歌詞も添えて披露されました。特に日本コース 6 年生の屋宜日菜子(Yagi Hinako)ちゃんの澄みきった天使の歌声に会場はウツトリ聞き入っていました。初めて聞くラス・マニャニータスの日本語の歌詞なので、ここに一部をご披露しましょう。

♪あなたが生れた よろこびの歌 あふれる心を
こめて贈ろう♪ ♪いつも幸せが あなたをつつむ
誰もがあなたを 愛しているから♪

Qué linda está la mañana en que vengo a saludarte, venimos todos con gusto y placer a felicitarte.

Ya viene amaneciendo ya luz del día nos dió, levántate de mañana, mira que ya amaneció. ♪ ♪



【筆者注：式典の詳細は LICEO のホームページをご覧ください。
<http://www.liceomexicanojapones.edu.mx/ja/35%E5%9B%9E%E8%A8%98%E5%BF%B5%E5%BC%8F%E5%85%B8>】

彫像“HERMANOS＝兄弟”の寄贈

LICEO 開院 35 周年を記念して、メヒコを代表する彫刻家である故ラファエル・ゲレロ・モラレス氏の作品「HERMANOS＝兄弟」が、同氏夫人でリセオ・メキシココースを卒業した二人のご子息を持つ猪股せい子さんのご好意で寄贈される事になり、式典の最後にマエストロ・ゲレロの経歴と作品の画像がお披露目されました。



寄贈作品

“Hermanos”

兄弟 (1984)

(57 x 60 x 43 cm)

この作品寄贈に際し、猪股せい子さんから以下のコメントが寄せられています。

「今、『アミーゴ会便り4月号』を見て、リセオの写真【編集部注：http://docs.mex-jpn-amigo.org/AmigoNews_1204.pdf】も載っていて、昔と大違いの立派な建物がならび、嘗て幼稚園の教室でルイス・ニシザワの奥さん達に日本語を教えたり、毎朝、やんちゃな二人息子の Carlos と Rafael を学校の前で車から降ろすと(まだ、門も無かったような気がする)、階段の上で、伊藤忠の小林(勇一)支店長が子供達一人ひとりに“おはよう、おはよう”と声をかけていたのが、昨日のように思い出されます。」

「あの、希望に満ちた、たくさんのリセオに関わった人たちの思いを是非引き継いで下さい(もう、故人になられた方も多いでしょね)。よろしくお祈りします。」

「ラファエル・ゲレロの“HERMANOS”(1984年制作)は黒大理石の作品で、ブロンズと異なり、オリジナル彫彫ですから同じものは二つとありません。」

「関東大震災(1923.9.1.)のとき、メヒコ革命後まだ国内が不安であったときの大統領アルバロ・オブレゴンは、“Como principio, Amor a la humanidad, México, hacia sus hermanos del Japón”のスローガンのもと、閣議に5万ペソの予算を取らせ、民間のもあわせて10万ペソの見舞金を、当時のメキシコにとって天文学的数字を、日本に寄付しました(日墨交流史)。」



メキシコを代表する彫刻家 故ラファエル・ゲレロ・モラレス氏の 作品がリセオに寄贈へ

「1978年にホセ・ロペス・ポルティエヨ大統領が御宿で御輿にのせられて、¡Hermanos!と日本人に叫びつけました。また、彼は“Relaciones de hermandad entre México y Japón”と必ず言いました。なぜかメキシコ側はいつも日本を Hermanos と呼んでいるので、LICEO へ丁度いいのでは…。また、世界に稀にみる二国の教育を同時にするという日墨学院では、人種が違って兄弟のようという理想の象徴に子供達が受け留めてくれると、日墨間は平和に付き合えるかも…。また、彫刻の意味も学院に相応しくなると思います。」

「この作品を手で触って、子供達が幾久しく慈しんでもらえれば嬉しく思います。」

友好の絆を固め伝える

今、私の手元に参考のため久々に開いた文集があります。10年前、2002年にLICEO開院25周年記念に編纂された『開校25周年記念誌』です。その中のLICEO第1期生のカルロスくんが寄せた作文が心に留まりました。「日本メキシコ学院、私の子供達のために」と題されたこの一文を披露して、この稿を閉じる

事にいたします。

『常に、親というものは自分の子供達に少しでも良いものをと願うものだとおもいます。私はこのリセオでメキシコと日本という2つの偉大な文化と共に成長しました。』

「あなたの子供により価値のある教育を！」

「21世紀のメキシコそして世界が必要とする価値観を備えた人材の育成！」—これらは学院のモットー (Motto) でした。

中学、高校と教育を受けた1期生として、学院が私に残してくれたものを思い起こせば、尽きることない数々の懐かしい思い出や素晴らしい逸話。そして斬新な経験と友人達。これらを私の子供たちに是非とも経験してもらいたいと思っています。

私は2児の父で、教育の難しさはわかっているつもりです。しかしリセオが創立された目的を思い起こし、この25年間の堅実な歩みを見れば不可能なことはないと思うのです。

私の父が私に言うように、リセオで教育を受けたおまへは60%がメキシコの文化から、そしてもう60%が日本の文化から教育を受けたのだから120%で、20%人間として余分に力がついたのだ。だからメキシコと日本のために活躍する良いリーダーとならなければならないと言われました。

リセオの今から更なる25周年を迎えることを心待ちにしています。本当におめでとうございませう。

¡Muchas felicidades! ¡Que Dios los bendiga!
Para mis hijos..., el Liceo Mexicano Japonés
A.C. Carlos Kasuga Sakai 1a. Generación!』

現在、LICEOを取り巻く社会的環境は急速に変化しています。先人の夢見た「友好の絆」を固く結び直し、LICEOがシッカリと社会への責任を果たせるように、理事の一員としても二本の異なる紐を糾う微力を今後とも尽くしたく存じます。(了)

【編集部注：本稿掲載写真は全てリセオ文化センター部広報編集室より転載をご快諾いただきました。記して厚くお礼を申し上げます】

アミーゴ会総会・懇親会のお知らせ

今年度の総会と懇親会に皆様奮ってご参加ください。

日時：2012年11月6日(火) 18:00~20:30

・総会：18:00~18:30

・懇親会：18:30~20:30

会場：ゼスト・キャンティーナ G-Zone 銀座

東京都中央区銀座1-2-3

URL：<http://www.zest-cantina.jp/gzone/>

あとがき：今号も会員諸氏の多彩なご投稿を多数頂戴し、とても読み応えのある豊富な内容となりました。誌面の都合で次号掲載にせざるを得ない記事もあり、この欄を借りてご投稿者に編集部の不手際をお詫びします。会員のご投稿と激励が編集部の“パシオン”の源泉です。ご支援をお願いします。『アミーゴ会だより』を片手に(?)日本の秋をお楽しみください。[か121020]